2025 年 春号（通算 476 号）

るうてる

箱崎群教会共同体版

ー月報 メッセージと証しー

発　行　日本福音ルーテル箱崎教会
代表者　牧師 和田 憲明
〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3
ＴＥＬ（092）641-5440
【箱崎教会・恵泉幼稚園】
【聖ペテロ教会】
【奈多愛育園・るうてる愛育園】（保育園）

今春、多くの方々が「証し」（神さまからの自身への働きかけ）を寄稿くださいました 感謝しつつ おかちします（わ）

＜和田 憲明牧師退任のあいさつ＞

このたび日本福音ルーテル教会の任期をむかえ（一期７年の三期で満期）、崔 大凡（ちぇ でぼん）牧師の後任として異動となり、熊本市の九州ルーテル学院大学・ルーテル学院幼稚園・くろかみ保育園のチャプレン（施設の牧師）、そして日本福音ルーテル室園教会牧師の任が与えられました。
21 年の長きにわたり家族共々たいへんお世話になりました。みなさまの日々の祈りや陰日向のご奉仕の中で、弱く欠け多き器の私や家族を力強くお支えいただきました。感謝しつつ、祝福と主の平和を祈らせていただきます。

＜崔 大凡（ちぇ でぼん）牧師 就任のあいさつ＞

和田憲明先生の後に、箱崎教会、聖ペテロ教会、恵泉幼稚園、奈多愛育園、るうてる愛育園のために務めることになった崔大凡（ちぇ・でぼん）と申します。新しい場所で、新しい方々、子どもたちと共に礼拝できることを嬉しく思います。それぞれの教会と施設で聖書の御言葉のために仕えるのが牧師・チャプレンの働きの始まりだと考えています。足りない者ですが、大切に伝え、皆さんと一緒に聞いていきたいと思います。よろしくお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「神様からの招きを受け入れるまで」

H・A

クリスマスの天使からのお告げを受けたマリヤさんは、「お言葉の通りになりますように…」と、その日のうちに、素直に受け入れました。なんてすごいことでしょう。
私はと言いますと、神様から招かれて、洗礼を受けるまでに 30 年以上の年月が必要だったようです。

初めてこの教会に恵泉幼稚園の保育者として招かれたのは、30 年以上前のこと、その当時の園長先生といえば、坂根里辺香先生。
それまでも、学生時代やお友だちの中に、クリスチャンの素敵な方には、お会いしていましたが、この先生ほど、保育者としても、人間的にも、素晴らしい方、愛が溢れる姿、尊敬できる姿に、大きな感銘を受けたことを覚えています。

その次の園長先生は、伊藤保子先生。親しみやすい先生でしたが、やはり、何かが違うのです。先輩や同僚の先輩もそうでした。みなさん、優しくて、温かくて愛に溢れて…
ああ、このような素晴らしい方々が、クリスチャンとなられるんだなあ…、世界が違うなあ人種が違うのかなあ…と思ってきました。

ところが、私が、仕事を離れても、結婚して子供が産まれて、保護者として幼稚園に戻っても、小学校にあがり、お手伝いをさせていただいている時も、その後、ずっと続けて保育者として、神様のそばにおいてくださり、いつでも暖かく受け入れてくださいました。
辛い時も、悲しい時も、離れていっても…大丈夫。いつもそばにいるよと、私は、幼稚園や教会でのお話の中から、子どもたちと唱えた聖句から、讃美歌の中から学びました。

例えば、絵本「くつやのマルチン」のように、もしかしたら、イエスさまは、クラスの子どもたちや、その時々、いろんな方々に、姿を変えて私にかかわってくださっていたのかもしれない…とか、有名な詩「あしあと」のように、本当に、辛い時に、私を背負って一緒に歩いてくださったのかもしれない…とか、困った時、悲しい時、幼稚園で学んだ聖句が、自然と浮かんできて、私を支えるようになっていきました。

そして、あなたは、あなたのままでいい。立派な人でなくてもいい。何事にも、あなたの時があるのよ！と、背中をおしてくださった教会の方々のおかげで、やっと、洗礼を受けることができました。

これからも、「あなたが私を選んだのではない。私があなたを選んだのだ」との御言葉…、そのことを思いながら、安心して、信仰生活を歩んでいきたいと思っています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

光の子として歩む

S・A

私は自分のことをキリスト教徒だと言っても良いのか。これは私がずっと疑問に思っていることだった。洗礼は受けていないけれど小学生のころは教会学校に通っていて、中学高校ではキリスト教から離れた生活をしていた。学校の授業で宗教について学ぶとき、クリスマスが近くなるころ、キリスト教系の学校に行った同級生の話を耳にする度、ふと思い出す。私の日常には、神様が、イエス様が、居なかった。

とはいえ、1 年に 1 度、クリスマスの礼拝にはなるべく行くようにしていた。そもそも私は母が勤めていた(現在も勤めている)教会系列の幼稚園に通っていて、母が日曜日の礼拝に参加していたこともあり、その流れで一緒に教会学校に行っていた。だから行こうと思えばいつだって教会に行けたのだが、中学で忙しい部活に入ったがために自然と足が遠のき、せめてクリスマスだけは、という気持ちでいたのだ。

また、親子で教会に来ている多くの人と違って、我が家にクリスチャンはいなかった。お祈りの習慣だって無かったし、ものごとを考える軸としてキリスト教の教えがあるという訳でもなく、ほんとうにふんわりと、なんとなく、信じているか信じていないかで言うと信じている、そんな感じ。だから、教会に行っている とひとに言う機会があるとき、説明に困った。キリスト教徒ではあるんだけれど、クリスチャンではなくって。あまり違いをわかってもらえないことが常だったが、私はそこは大した問題では無いように感じていた。

では私の中で何が引っかかっていたのか、だ。私は自分のことを中途半端だと思っていた。たまに教会に行き、小学生やティーンズ向けのキャンプに 1 年に 1 度だけ参加する。それだからひとに キリスト教を信仰している とはっきり言うことが出来ない。要は、イベント事にだけやって来る、雰囲気を楽しんでいる人。そう思っていた。

洗礼の話を貰った。大学 1 年生の夏休み。お世話になった牧師先生が異動してしまうから、母子で洗礼を受けてみないかとのことだった。最初は、迷った。先に書いたように、私は自分のことを中途半端な信仰しかしていない人だと思っていたから。しばらく考えた。結局、受けることにした。

私の生活に神様は居ないと思っていたけれど、いざ考えてみるとやっぱり、真ん中に居たのだ。
悪い言い方をすれば都合が良いときにだけ、良い言い方をすれば何か起こったことを伝えたいとき、自然と神様にお祈りをしていた自分がいた。つまり、テストがうまく行きますようにだとかきょうは新しい友達を作ることができましただとか、そういう些細なことを伝えたい相手に神様がいた、これだけ、たったこれだけでも十分、洗礼を受ける理由になり得るのではないだろうか？ そう思って 19 歳の誕生日、私は洗礼を受けた。

もちろん、クリスチャンになったからと言って

何かが突然変わるわけでもなく、忙しさを理由に教会にはほとんど行けていない。しかし、せっかく私は生まれ変わったのだ、現在住んでいる場所は今まで過ごしてきた教会のある地元とは遠く離れているけれど、皆と同じところを見つめる者として、より信仰を深める、というよりも、私らしく自分をかたちづくっていくために光の子として歩んでいきたい。まずはそのための学びを惜しまず成長していけたら良いなと思う。神様、イエス様、どうか私を見守っていてください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

受洗して

Ｙ・Ｓ

私は三男の入園で恵泉幼稚園に出会い、ルーテル教会に導かれました。保護者会の礼拝でのお話、聖書の言葉に惹かれ、また園の先生方のあたたかく優しい言葉づかい、柔らかいまなざしやしぐさに深く感銘を受けました。キリスト教に触れていくうちに、多くの美しい言葉、考え方を知りました。私が洗礼をうけたいと思うまでになることができたのは、私の心の変化や迷いをありのまま、あたたかく無理なく見守り導いてくださった方々のおかげだと何度も何度も感謝の思いでいっぱいになります。

洗礼式を経た今、「いつもあなたがたと共にいます」(マタイ 28:20)この聖書の言葉があらためて静かにじんわりと心に沁みわたります。今までも自分の力ではどうしようもない時、神様に「委ねさせてください」という気持ちでお祈りをしていました。子育ての中でも、息子を想いただ祈るしかできない時…どうしてあの時あの気持ちに気づいてあげられなかったのかと悔やむ時…この言葉に力をいただきました。神様はきっと彼に良い道を知らせてくださるから、そっと見守りながら待とう。あの時ではなく、今がその時なのだと教えてくださっているのだから、今に心を込めようと気持ちの向きをかえることができました。

初陪餐の時には、自分の心の奥の場所に光が灯ったような、心強さとあたたかさで胸がいっぱいになりました。心の中にともにいてくださる神様の言葉に耳を傾けながら日々お祈りをし、そして時に「委ねさせてください」と気持ちと身体を緩めながら過ごしていきたいです。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ 12:15)今恵泉幼稚園で可愛い子どもたちに寄り添わせていただく中で、また自分の生活の中でもこの聖句を忘れずにいたいと思います。すぐに自信をなくして悩んだり落ち込んだりばかりしてしまう私ですが、ともにいてくださる神様を信じて、自分にできることに想いを込めて日々を歩んでいけたらと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた」（マルコ１章 35 節）

Ｍ・Ｆ

今回、「日本基督教団大阪大道教会」から「日本福音ルーテル箱崎教会」に転入させていただき感謝します。2004 年（平成 16）４月、和田牧師一家が箱崎教会に招聘されて以来、時々ですが教会に出席させていただいています。

転入への私の簡単な遍歴と想いを述べたいと思います。

1949 年（昭和 24）11 月、「団塊の世代」といわれる時代に大阪市の下町に生まれ、昨年に後期高齢者の仲間入りをしました。

小学校上学年の頃、日曜日の朝９時頃「ルーテルアワー」という 20 分位のラジオ番組が放送されていました。まだ、我が家は真空管ラジオ時代で聞きづらかったのですが、いつも番組の初めに流れてくる「神はわがやぐら(教団讃美歌 267)」を聞くのが楽しみになっていました。これがキリスト教との出会いかもしれません。

中学校１年生の時、近所の方から「日曜日、おもいっきり遊べるとこあるで～！」と。詳しいこともわからず、その方の子どもさんと私、兄とで行った所が「大道教会」でした。
同学年を含め世代間を越えた多くの方がおられ、何もわからず唯々行くことが楽しみに。

そのうちにＣＳ仲間が毎土曜日に集まり語り合うようになり、いつの間にかに会堂掃除・週報印刷などなどの奉仕。ＣＳだけでなく大人礼拝にも出席するようになりました。そして高校

１年生の 1966 年（昭和 41)、クリスマス礼拝で受洗しました。その時、高校生だけでも 5~6 人が受洗したと記憶しています。

高校２年生の時、教会で親しくしていた同学年の友人が悪性腫瘍で入院しました。教会の人たちと週１～２回夜に讃美歌を届けました。そして、彼が亡くなり「人が居なくなる（人の死)」ということを考え出しました。

1968（昭和 43）年４月に入学した大学サークルに「筑豊の子供を守る会キャラバン」があり、即入会しました。というのも、一年間大道教会が無牧になり、代牧されていた神学生が「守る会」で筑豊に関わられていて、筑豊の子どもたちのことや人々の生活のことなどなど、熱っぽく語られたことが心に残っていました。その夏、キャラバンチームで初めて筑豊の川崎町を訪れました。そこは「土門拳 筑豊の子どもたち写真集」などに描かれていたのと同じ現実がありました。

1957（昭和 32）に閉山した小さな小炭坑で電気・水道も切られトイレは共同、という時代がありました。しかし、どん底ともいえる貧困にもかかわらず子どもたちの明るさ、大人もギリギリの生活であっても生きることにたくましい姿。それは、今までの私の生活（教会生活も含めて）はいったい何だったのか、ということが問われる経験でした。それ以来、冬・春・夏、時間が取れれば筑豊通いをするようになりました。そして、「可哀想な人たちに愛を」に象徴される同情や憐みではなく、求められているのは「打ちひしがれている人びとへの関心と理解」であることに気づかされました。

いろいろな経過もあり同じキャラバンチームの人たちが「保育所を筑豊で開きたい」ということから、1970（昭和 45）年、川崎町で無認可の保育所を開設しました。

そして約 50 年。　教会との係わりは細い細い糸の繋がりでしかありませんでした。しかし、今まで知り合った人たちから教えられたことなどを中途半端に考えて過ごし、あまりにも自分を頭として中心に生きている姿を知った時、「教会へ！」と気づかされました。

独断ですがマルコが短く書く「イエスの祈り」から、イエスが悩み・苦しみからの救いを神に願ったのではないか、と思うのです。
今後ともよろしくお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日本福音ルーテル箱崎教会員
入会のご挨拶

N・M

会社を退職し６５歳（2006 年）で福岡に帰ってきました。今年が７回目・巳年の８４才です。

1963 年、箱崎教会で（故）南里牧師から洗礼を受けました。会員の皆様と心温まる交流をさせていただき、南里牧師から「受洗した貴方は、基本から作り替えられているのですよ！」と言う言葉を頂き、翌年、東京に旅立ちました。当時は戦後復興期、「物づくり日本」を支える電力インフラ整備はほぼ終わりかけ、都市インフラ整備の時代でした。都市インフラ建設に従事し、転居も多いが、充実した技術屋人生でした。しかし年齢と共に教会生活から足が遠のき、心の葛藤を持つようになりました。

帰福後は、福岡 SGG クラブ、高取公民館国際委員会、等のボランティア活動グループに所属し、社会奉仕を生きがいにし、先輩会員の奉仕に対する真摯な心意気を学びました。しかしそのような日常でも、教会生活からは外れていましたので、その間も、南里牧師から頂いた言葉が頭から離れずに気になって居ました。

体力維持のため、散歩をします。お好みのコースは百道海岸ですが、時々地下鉄貝塚線に乗り、「箱崎九大前駅」で降り、恵泉幼稚園、旧・三威閣跡、立派になった教会を眺め、ポツンと残った九大工学部本館（学び舎)、箱崎宮境内、その他、懐かしい場所を散策していました。

そのような昨年 10 月、教会内掲示板の信者集合写真の中に旧友を探している時、和田牧師とお会いし、再入会を決意しました。ずっと心の片隅にあった、南里牧師の言葉に背中を押して頂きました。

現在、会員数も倍増し、昔、親しく交流して頂いた人のお子様、孫の代になって居ます。頼もしい限りです。教会建物も広くなり、使いやすくなっています。教会を守ってこられた皆様のご努力が偲ばれます。
長年気になっていた心の中の「わだかまり」も無くす事が出来るのではないかと思っています。
辛うじて健康寿命を保っている身体ですが、この春に恵泉幼稚園の桜の古木が頑張って花を咲かせ、その下で可愛い園児達が集うのを見る事

を楽しみにしています。すべての事は神のご計画、導きだと感謝しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

大切な居場所

N・F

この度は堅信を受けさせて頂いたこと、とても嬉しく思います。
私は恵泉幼稚園を卒園後、母に連れられ教会へ通うようになりました。初めはなんとなく通っていましたが、親の意思で小児洗礼を受け、全国子どもキャンプや春キャンに参加するにつれ、気づいたら神様の存在を意識して生活するようになっていました。幼少期の思い出はほとんど教会の方々と過ごした、楽しい瞬間です。
自分が悪いことしたなと感じた時には「神様ごめんなさい」といい、悲しい時には「神様傍に居てください」といい、嬉しい時には「神様ありがとうございます」と自然と言うようになっていました。
そんな中、私情で気持ちがぐちゃぐちゃになってしまい、聖餐式を受けなかったり、教会から足が遠のいてしまった時が何度かありました。「なんで神様助けてくれないの」とたくさん泣いたりしていました。だけどそんな時、聖書と教会の方々に救われました。誰を信じたら良いのかも分からず、何もかも嫌になってしまっていた私ですが、この経験も一生教会と生きていきたいと思う１つとなりました。
このようになんとなくで始まった私の教会との生活は、今ではかけがえの無いものになり、今回の堅信にも至りました。
きっとこれからの人生でもっと高い壁とぶつかることもあるかもしれない。だけど神様を信じて、教会へ行って、乗り越えて生きていこうと思います。
神様、和田先生、教会の方々、いつもありがとうございます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『教会にいられること』

Y・F

箱崎教会で和田牧師のもと、堅信式をできたことを嬉しく思います。小さいころから箱崎教会に集い、小児洗礼をうけ、今回の堅信式を受けるまで教会は朝早く起きて親に連れてってもらう、何気ない日常になっていました。しかし、堅信の学びを通して正式な教会員として集う大切さを知ることができました。今まで「みんなに会えるから」と行っていた教会とは違い、神様が私たちを導いてくれる教会だと思うと教会での人との出会いは素晴らしいものだと実感しました。箱崎教会はいろんな人が集う場所で、居心地が良い場所です。小さいころから遊んでいる人とは今でも仲がいいし、久しぶりに再開しても久しぶりとは感じないほど話すし、年齢が全然違くても笑い合えるし、そんな箱崎教会はかけがえのない場所だなと実感しました。わたしも一昨年中学生になり、部活や学校生活で大変なことが増えてきました。嫌なことがあって、家族にいってもモヤモヤし続ける時もあります。でも、教会に行ってみんなの顔をみたり他愛もない話をするとどうでもよくなります。教会は学校でも家でもない１つの居場所だなと思いました。また、昨年の９月にあった九州ルーテルキャンプに初めて参加しました。福岡ではあったものの、初対面の人もいて馴染めるか不安はありました。しかし、お互い教会に集う仲間として信頼でき、様々な活動に協力して取り組むことができました。今でもたまに連絡を取り合える仲にまでなれました。教会を通じてできる繋がりや、幅広い年代の方との繋がりや、長い関係からできる深い繋がりを築けるのも教会に集う素晴らしさでもあります。これからもいろんな活動に参加し、関係を築いていきたいです。そして箱崎教会の一員として歓迎してくださり、ありがとうございます。まだまだ学べることは学び、築ける関係は築き、これからの教会生活を過ごしていきたいです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『第３の居場所』

U・W

この度はこの生まれ育った箱崎教会で、一緒に幼少期をこの教会で過ごした古澤ななこさんとゆきこさんと共に堅信を受けることができてとても嬉しく思います。また、人生を通して私の記憶に刻まれる大切な出来事になったと思います。

教会は家、学校と並ぶ私の第３の居場所だと思います。
教会は学校とも、家とも違う安心感や楽しさがありました。家族以外の年が離れた人と関わることが出来、小さい頃からの関わりなので、気を遣わない、気をはらないで、リラックスした状態でいろいろなことを話すことができました。また、第２の家族と言えるほど家族のように話すことが出来ます。
一方で、本当の家族ではないからこそ、家族には相談しにくい学校のことも、学校とは関わりのないからこそ、教会の人になら話すことが出来ました。
家や、学校で辛いことがあっても私には教会がある、と思うことが出来ました。
私が感じる教会を一言で言うと、「精神安定剤」だと思います。
行って、帰ってきた時に「疲れた」とはならない、行くことで寧ろ、心を安定させることが出来る、疲れを癒してくれる場所だと思います。
最初は友達に会うために教会に行くという目的でしたが、友達が来ていない時もいつの間にか自ら積極的に教会に行くようになっていました。
私の生活には教会が必要、私はこれからも教会に通いたいと思ったので堅信を受けることにしました。
結びに、他の教会ではなく私が１番安心することが出来る箱崎教会という場所で堅信を受けることが出来て、心の底からよかったです。

ひとりひとりをたいせつに
奈多愛育園

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

るうてる愛育園の思い出

― 様々な行事を通じて

Ｔ・Ｏ（るうてる愛育園保護者）

この一年間、我が子が通う保育園では、さまざまな行事を経験し、そのたびに成長を感じることができました。特に印象に残ったのは、運動会、芋掘り、そして降誕劇です。それぞれの行事を通じて、子どもたちは協力することの大切さや努力することの喜びを学び、私たち保護者もその姿に感動しました。
運動会は、子どもたちの頑張りが光る一日でした。かけっこでは、昨年までは泣いてしまっていた我が子が、今年は真剣な表情で走り抜け、その成長に胸が熱くなりました。また、親子競技では、子どもと一緒に力を合わせる楽しさを実感しました。友だち同士で声を掛け合いながら競技に取り組む姿は、日々の園生活の積み重ねが生んだものだと感じ、先生方のご指導に感謝の気持ちでいっぱいになりました。
秋には、子どもたちが楽しみにしていた芋掘りがありました。土の中から大きなサツマイモを引き抜いた瞬間、目を輝かせて喜ぶ姿がとても微笑ましかったです。「こんなに大きいのがとれたよ！」と誇らしげに見せてくれた時、子どもたちの純粋な喜びが伝わってきました。また、自分で掘ったお芋を家に持ち帰り、家族で食べることで、食べ物の大切さや自然の恵みに感謝する心を育む良い機会になったと思います。
冬の大きな行事である降誕劇では、子どもたちの表現力に驚かされました。セリフをしっかり覚え、堂々と発表する姿はとても頼もしく、一生懸命練習したことが伝わってきました。特に、恥ずかしがり屋の我が子が、大きな声でセリフを言えた瞬間は、親として大きな感動を覚えました。劇を通して、子どもたちは協力することの大切さや、みんなで作り上げる喜びを学んだのではないかと思います。
これらの行事を通じて、子どもたちは大きく成長し、私たち親もその姿に多くの感動をもらいました。日々温かく見守り、指導してくださる先生方に心から感謝申し上げます。これからも、子どもたちがたくさんの経験を積み、のびのびと成長していくことを願っています。たくさんの思い出をありがとうございました。

社会福祉法人 一羊会
るうてる愛育園